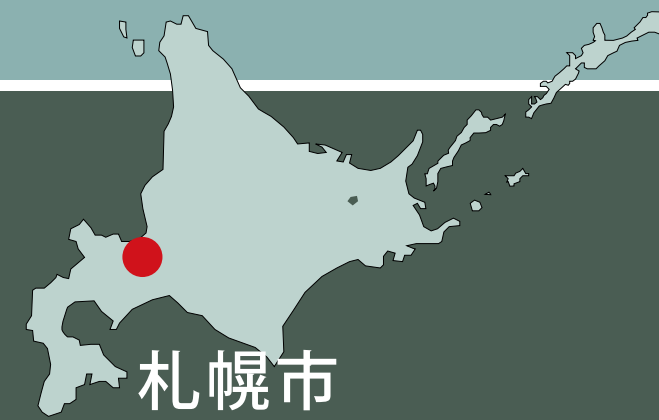


道庁前イチョウ並木 (札幌市)



札幌市



道路から広場になり、街路樹は新たな役割を担っている

北海道内に現存する最も古い街路樹

北海道庁赤れんが庁舎前にあるイチョウ並木は、1925（大正14）年に道庁初代勅任技師名井九介博士の指導の下で、札幌初の木塊舗装の完成を記念して植栽された、道内に現存する最も古い街路樹である。当時の北海道では、イチョウは入手困難な貴重な樹種だったため、東京から運ばれた19年生のイチョウが32本植栽された。赤れんが庁舎とともに札幌のシンボルとなり、樹齢百年を超えた今も28本が現存している。

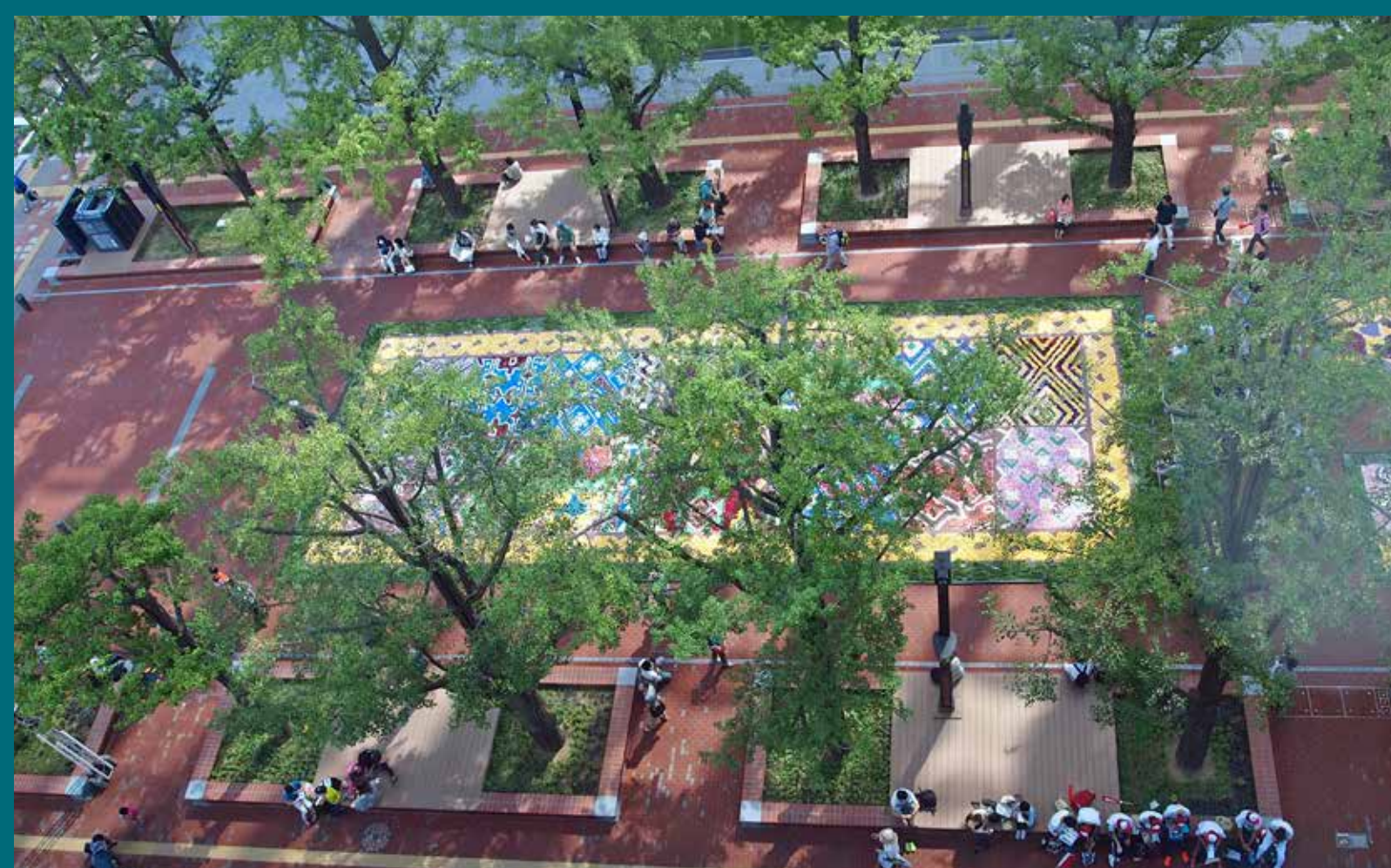
都心まちづくり計画を受け、道路を廃止して都市計画広場「北3条広場」となり、2014（平成26）年には、隣接して事業が行われた都市再生特区の事業者の公共貢献によって、都心のにぎわい空間に生まれ変わっている。

概要

名称	道庁前イチョウ並木
所在地	札幌市中央区北3条西4丁目
管理者	札幌市
規模	約90m、28本
種別等	並木・街路樹
整備年	1925（大正14）年
2011（平成23）年に土木学会より選奨土木遺産として認定	



北西部の植え込みの中に、由来の書かれた標石が置かれている



イチョウの植え込みますが改善され、広場は様々な催し物が行われている